特集

序文
肥満症およびその診療の最前線

神谷英紀*

現在，我が国においても欧米と同様に肥満および肥満症への早急な対応が求められている。令和 4 年の「国民健康・栄養調査」[1]の結果では，肥満者（BMI ≧ 25 kg/m^2）の割合は，男性 31.7 %，女性 21.0%であり，この 10 年間でみると，女性では有意な増減はみられないのに対し，男性では有意に増加している。肥満は，生活習慣病の発症・重症化だけでなく，各臓器や身体機能に関連する様々な健康障害につながる可能性が指摘されている。また肥満という状態に起因ないし関連する健康障害を合併するか，その合併が予測され医学的に減量を必要とする場合，肥満症という疾患として扱われている。

この肥満・肥満症に対する治療としては，食事・運動療法（行動療法）が根底にあることは間違いないが，最近は薬物療法（内科治療）において新しい治療薬が登場し治療の幅が広がった。また外科治療も条件を満たせば保険診療下で行うことができるようになり，我が国においてもその有用性がいくつも報告されるようになった。しかし行動療法を患者一人で継続するのは困難であるため，医師だけではなく管理栄養士，理学療法士，臨床心理士，看護師，薬剤師などの専門スタッフからのサポート体制つまりチーム医療も重要といえる。

本特集においては，愛知県内で肥満および肥満症の研究および臨床に造詣の深い先生方に原稿をお願いさせていただいた。肥満・肥満症についてのオーバービューを名古屋大学の尾上剛史先生，肥満に関する研究の進歩については名古屋大学の杉山摩利子先生，食事療法については藤田医科大学の飯塚勝美先生，運動療法については愛知医科大学の尾川貴洋先生，薬物療法については名古屋市立大学の田中智洋先生，外科的治療については愛知医科大学の齊藤卓也先生，チーム医療については東部医療センターの田中達也先生から最新の情報を大変わかりやすくご紹介いただいている。皆様の明日からの肥満診療に活かしていただけると幸いである。

Key words
肥満，肥満症

* Hideki Kamiya：愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科 教授 / 愛知医科大学病院 肥満症治療センター 部長

利益相反

講演料：ノボノルディスクファーマ（株），サノフィ（株），住友ファーマ（株），日本イーライリリー（株），日本ベーリンガーインゲルハイム（株），第一三共（株），アストラゼネカ（株），小野薬品工業（株），キッセイ薬品工業（株），田辺三菱製薬（株），興和（株），ノバルティスファーマ（株），MSD（株），（株）三和化学研究所，大塚製薬（株），アステラス製薬（株）
受託研究費・治験など：小野薬品工業㈱，フクダ電子（株），CBC（株），パレクセル・インターナショナル（株），興和（株）
奨学寄附金：住友ファーマ㈱，ノボノルディスクファーマ（株），武田薬品工業（株），大正製薬（株）

文　献

1) 厚生労働省：令和 4 年「国民健康・栄養調査」結果の概要. 2024 年8 月28 日　閲　覧. https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001296359.pdf